

●ロミオ役

Kentaroh Shindo: Romeo

進藤 健太郎さん

自己紹介をお願いします。

進藤 七尾市民の皆さん、こんにちは。無名塾19期生の進藤健太郎です。東京出身の36歳。ロミオ役としては年を取り過ぎていきますね。

松浦 皆さん、こんにちは。無名塾27期生の松浦唯です。初舞台は、平成21年に能登演劇堂で公演した「マクベス」。七尾市にはすごく縁があります。出身は青森県です。

主役としてのプレッシャーはありますか？

進藤 制作関係者からの電話で「ロミオとジュリエットの主役だ」と言われ、「1日考えさせてください」と即答しなかつたんです。それからの24時間が一番です。



七尾市民と共に作る、それが能登演劇堂の舞台。

レッシャーを感じた時。今は、あとはやるだけだと思っています。**松浦** プレッシャーはありませんけど、楽しみですね。わくわくしています。

役作りの方法は？

進藤 私は、この話をいただいたから「ロミオとジュリエット」に関するものは見ないようにしています。

松浦 へえ、本当ですか。

進藤 そうなんです。自分が演じるロミオが他人の演じるロミオに染まりそうなので。

松浦 私は、いろいろなものを見て、こんな感じ方もあるんだと、選択肢を増やしたいですね。真逆なふたりがロミオとジュリエットを演じるのはある意味、面白いですね。

能登演劇堂でのロングラン公演に対する思いは？

松浦 私は、初舞台が能登演劇堂だったので思い入れは強いです。マクベスのサイン色紙の兜の絵は私が描いたんですよ。演劇堂のロビーに飾ってある色紙を見ると初心に戻ります。

進藤 私も塾生2年目で初めてロングラン公演に出演したのが能登演劇堂。その時のことは今でも鮮明に覚えています。滞在中、居酒屋で飲んでると、お客さんが「俺、今のロングランに出るとんやぞ」と自慢げに話をしてるんですよ。いやあ、地元と共に演劇を作り上げていくんだと実感しましたね。

松浦 それって、素敵ですね。私もそんな場面に遭遇してみたいな。

進藤 普通、役者は見せる側、お客は見る側なのに、この公演では、その関係がいい意味で曖昧になる。役者の私たちでも、演じた次の日に観客として見ているなんて、ありえないですからね。

七尾市の印象は？

進藤 私の印象といえば、海岸線ですかね。和倉温泉から演劇堂に通う時、海岸線を通るんですけど、この道を趣味の自転車で走れたら最高だろうなあと感じていました。

松浦 和倉温泉から見た夕日も素晴らしいですよ。

進藤 まだまだ知らないところが多いですね。

松浦 次のロングラン公演の間に、行ってみたいところがあるんです。夜の能登島。星がすごくきれいだと聞いたので。七尾市は写真を撮ったら、すべてが絵葉書になるようなところですね。

進藤 そして食べ物は何でもおいしい！水もおいしいですし、お米がうまい。

松浦 地元の人たちが「おかえり」と迎えてくれるから、私も自然に「ただいま」と応えます。東京に帰る時のあいさつは「行ってきます」。だから、七尾市に来るとなんだかほっとするんです。



「おかえり」「ただいま」
そんな関係に癒されています。

松浦 「ロミオとジュリエット」はいろいろなところで公演や映画化されていますが、現代版が多い。今回の公演は、正統な演劇なので、ひと味違ったものになるはず。ぜひ、見に来てください。

市民へメッセージを。

松浦 七尾市では、いろいろなところをジョギングすると思うので、見かけたら声をかけてください。市民の皆さんともっともっと仲良くなれたらと思っています。七尾市での出会い一つ一つを大切に広げていきたいです。

進藤 ロングラン公演は、皆さんと一緒に創り上げるものだと思います。市民の皆さんを演劇の世界に巻き込んでみたいですし、市民の皆さんからも、七尾にはこんなところがあるよ、あんなところがあるよと教えてもらって相互の交流がしたいです。ロングラン公演の期間を共に大事な時間にしてですね。

松浦 「ロミオとジュリエット」はいろいろなところで公演や映画化されていますが、現代版が多い。今回の公演は、正統な演劇なので、ひと味違ったものになるはず。ぜひ、見に来てください。

松浦 唯さん

●ジュリエット役 — Yui Matsuura: Juliet

